

花粉症対策へ山梨大研究

医学部グループ 体内時計関与証明、制御

体内時計に働き掛けて花粉症を制御する研究を、山梨大医学部の中尾篤人教授(免疫学)のグループが2012年度から始める。新たな花粉症対策が導き出せる可能性があり、文部科学省は12、14年度の研究費計3600万円の補助を決めた。初年度は、体内時計が花粉症に関与していることを証明する。

哺乳動物の体温や血圧には、ほぼ24時間周期のリズムがあり、時計遺伝子による体内時計が制御している。中尾教授はアレルギイ反応も時間帯によって強弱があることに着目。花粉症が引き起こすくしゃみなどが朝にひどくなる「モーニングアタック」も、体内時計に起因すると考えた。

既に、時計遺伝子を変異させたマウスを使った実験を行い、体内時計が乱されると、じんましん反応の変動がなくなることを確認

歩進んだ治療も視野に入ってくる。中尾教授は「服用しても眠くならない薬の開発など、花粉症の新たな治療法につなげたい」として

いる。
08年に独協医科大(栃木県壬生町)の馬場広太郎名誉教授(故人)が全国の耳鼻科医ら1万5673人を

メカニズムを解明すれば、体内時計を制御することで、鼻水や目のかゆみ、くしゃみといった症状を抑えられる可能性もあり、免疫反応を鈍らせる薬の服用といった対症療法から一

対象に行った調査では、山梨県は県民に占める花粉症有病率が48%と全国で最も高く、全国平均の29%を大きく上回った。中尾教授は「花粉症の研究は、山梨県の地元大学が果たすべき重要な役割だ」として、研究費補助を申請した。